

5. 安全・安心な生活 ①交通安全対策の充実

評価者	環境生活部長 谷川 英次		
令和4年度 実行宣言			
<p>交通事故死傷者数の減少傾向を維持するとともに、交通事故死者数全国ワースト順位では前年の68位以上をめざし、関係機関が連携し様々な交通安全対策に取り組みます。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆	
<p>令和4年の交通事故死傷者数は前年の262人から301人、交通事故死者数は前年の4人から8人となり、全国ワースト68位から4位となりました。 今後はより一層、交通ルールの遵守と交通マナーの向上を図るため、学校や地域等で行う交通安全教室への参加者の増加を呼びかけるなど、地域、警察、関係機関等と連携した交通安全対策を継続実施し、市民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図ります。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>交通事故から市民の生命、身体及び財産を守るため、交通安全意識の高揚や交通ルールの遵守、正しい交通マナーの向上に取り組み、交通事故死傷者数の減少と交通事故ワースト上位脱却をめざします。</p>			

評価者	建設部長 松本 尚久		
令和4年度 実行宣言			
<p>地域内の通学路と生活道路について、国庫補助制度をうまく活用し一体的な整備に取り組みます。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆	
<p>通学路交通安全プログラムや地域と連携し、通学路の危険箇所や生活道路に対し、国庫補助金を活用した路面表示の改善や転落防止策などを整備し安全対策に取り組みました。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>通学路や交通量の多い市道について、地域の実情に合わせた効果的な交通安全対策を進めます。</p>			

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	交通事故死傷者数(1月～12月)				目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 谷川 英次					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	323 人	312 人	301 人	289 人	
	実績	334 人	283 人	262 人	301 人	—	
	評価	—	S	S	S	—	
今後の方針	幼児から高齢者の全年代を対象とした「とまとーず」の交通安全教室、「四季の交通安全運動」での啓発、推奨像伝達式等を継続的に実施し、地域、関係機関、行政が一体となって、様々な交通安全啓発活動に取り組みます。						
数値目標 ②	項目	交通マナーが悪いと感じる市民の割合				目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 谷川 英次					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	38.7 %	35.8 %	32.9 %	30.0 %	
	実績	41.6 %	— %	38.3 %	31.6 %	—	
	評価	—	—	C	S	—	
今後の方針	三重県全体で取り組んでいる「ハンドサインキャンペーン」、「まもってくれてありがとう運動」の周知を図り、歩行者、車両の両面で交通マナーの向上に取り組みます。						
数値目標 ③	項目	交通安全対策の整備に対する市民満足度				目標種別	↑
	評価者	建設部長 松本 尚久					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	2.58 /5	2.62 /5	2.66 /5	2.70 /5	
	実績	2.55 /5	— /5	2.70 /5	2.71 /5	—	
	評価	—	—	S	S	—	
今後の方針	引き続き学校、地域、警察と連携した交通安全対策に努めます。						

関係所属	
地域安全対策課、建設保全課	

5. 安全・安心な生活 ②防犯対策と消費者保護の充実

評価者	環境生活部長 谷川 英次		
令和4年度 実行宣言			
<p>犯罪のない安全・安心なまちをめざし、刑法犯認知件数の減少傾向を維持します。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆	
<p>市民の模範となるべき市職員が相次いで逮捕されるという不祥事が発生しました。市民の皆様に対する信頼を著しく失墜させる事態になったことにつきましては、深くお詫び申し上げます。今後、市職員から逮捕者を出さないよう、法令順守、綱紀の保持を徹底し、信頼回復に努めてまいります。</p> <p>令和4年の刑法犯認知件数は前年の651件から647件となり、減少傾向を維持していますが、特殊詐欺被害件数は昨年より6件増の14件となっています。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>地域、警察等の関係機関との協働及び連携を強化し、「犯罪のない」「犯罪被害に遭わない」「暴力のない」安全で安心な明るい地域社会の実現をめざします。</p>			

評価者	産業文化部長 川村 浩稔		
令和4年度 実行宣言			
<p>消費生活センターでの相談窓口が消費者被害防止につながることを周知啓発するとともに、ニーズにあった相談対応に努めることで悪質商法による消費者被害を未然に防ぎます。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆☆	
<p>令和4年度はコロナが収束に向かう中で、通信販売やSNS、インターネット通販のトラブルが増加し「消費生活センター相談件数」においては過去4年において最大の相談件数となる中、「消費生活センター解決度」は年々その解決度が上がっています。また、「特殊詐欺件数」はこの4年で最多ともなっています。</p> <p>「特殊詐欺件数」の大幅な増加に呼応して相談件数が増えていることは、消費者の相談ニーズを的確に捉えていることを示しており、そのような増加する相談に対して解決度が過去最大値となっていることは、消費生活相談員がスキルアップしながら最新の悪質商法等にも対応しているものであり、消費者被害の抑止に大きく貢献しているものと思われます。</p> <p>全体として目標を大きく上回っていることから星4つの評価としました。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>消費者被害やトラブルを未然に防ぐため、悪質商法の手口や対処法について出前講座やホームページで周知するとともに、引き続き消費生活センターでの解決度を高め、消費者被害を防ぎます。</p>			

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	刑法犯認知件数(自転車盗)(1月～12月)				目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 谷川 英次					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	157 人	148 人	139 人	130 人	
	実績	165 人	93 人	80 人	130 人	—	
	評価	—	S	S	S	—	
	今後の方針	警察等関係機関との連携、出前講座やホームページ、松阪ナビ等による情報発信を行い、刑法犯認知件数の更なる減少に取り組みます。					
数値目標 ②	項目	特殊詐欺件数(1月～12月)				目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 谷川 英次					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	7 件	7 件	6 件	5 件	
	実績	7 件	8 件	8 件	14 件	—	
	評価	—	E	E	E	—	
	今後の方針	「松阪市特殊詐欺等被害防止機器購入補助金」制度による、自動応答録音機能を有する電話機器等の購入費用の補助や、警察等関係機関との街頭啓発、ホームページ等での情報発信、出前講座等により、高齢者の特殊詐欺被害防止に取り組みます。					
数値目標 ③	項目	消費生活センター相談件数				目標種別	↑
	評価者	産業文化部長 川村 浩稔					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	1,287 件	1,308 件	1,329 件	1,350 件	
	実績	1,266 件	1,343 件	1,165 件	1,368 件	—	
	評価	—	S	E	S	—	
	今後の方針	消費者の疑問や不安を解消したり、年々複雑化・巧妙化する消費者トラブルの被害を未然に防ぐため、相談内容に合わせた情報提供や助言を行うとともに、適切な専門機関への「つなぎ」を行います。					
数値目標 ④	項目	消費生活センター解決度				目標種別	↑
	評価者	産業文化部長 川村 浩稔					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	98.7 %	98.8 %	98.9 %	99.0 %	
	実績	98.6 %	98.5 %	99.1 %	99.3 %	—	
	評価	—	E	S	S	—	
	今後の方針	積極的に専門的なセミナーや研修等に参加し、常に最新の情報を把握するとともに知識の向上を図ることとで、常に変化していく消費者問題に対応した相談業務に努めます。					
関係所属							
地域安全対策課、商工政策課							

5. 安全・安心な生活 ③防災・危機管理対策の充実

評価者	防災対策担当参事 北川 高宏		
令和4年度 実行宣言			
<p>引き続き「自助」「共助」の意識を高めるために、持続的防災啓発と地域の防災体制の強化に向け取り組みます。地域で作る「地区防災計画」の策定支援を新型コロナウイルス感染症の影響も考慮しながら、策定完了地区の目標達成をめざします。またコロナ禍における適切な避難所運営をめざします。行政が大規模災害時にやるべきことを記述した「松阪市業務継続計画(BCP)」について検証を行い、課題解決に向け取り組みます。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆	
<p>持続的防災啓発と地域の防災体制の強化に取り組み「自助」「共助」の意識を高めました。防災出前講座や地域での防災訓練への支援について、目標を大幅に上回る支援回数(109回/年)となり、地域住民の防災意識の向上に努めることができました。また、松阪市防災訓練として飯南地域において避難訓練や感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練を「松阪防災の日(10月第4日曜日)」に実施することができました。</p> <p>「松阪市業務継続計画(BCP)」を基に策定した「松阪市災害時職員行動マニュアル」について、策定後5年が経過する中、震災による大規模災害時における市全体としての災害対応能力強化や実行性のある計画とするために、各部局の課題整理や課題解決への取組を進め、災害時職員行動マニュアルの見直しを行うことができました。</p> <p>一方、研修会を開催するなど「地区防災計画」の策定支援を行い、計画の追加策定を1地区が実施されたものの、これまでのコロナ禍の影響により、地域協議等のスタートの遅れがみられ、計画策定完了の目標達成には至りませんでした。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>地域での防災訓練や防災出前講座、地区防災計画の策定等について、引き続き地域住民の防災意識向上をめざし、地域への支援を実施していきます。</p> <p>令和4年度に見直した「松阪市災害時職員行動マニュアル」について、見直し時に抽出した各部局の課題について、課題解決へ向けての進捗管理を行うためBCM会議を開催します。</p> <p>南海トラフ地震による被害が懸念される中、夜間に発災した場合においても、市民や自主防災組織、各種関係機関等との連携を図り、相互の連携強化と防災意識の向上を図るため、松阪市主催による初の夜間防災訓練を実施します。</p>			

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	災害に対する備えをしている市民の割合				目標種別	↑
	評価者	防災対策担当参事 北川 高宏					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	43.6 %	45.7 %	47.9 %	50.0 %	
	実績	41.4 %	43.4 %	40.6 %	39.6 %	—	
	評価	—	A	E	E	—	
今後の方針	地域での出前講座などの機会を利用し、日頃の備えの必要性について啓発に努めます。						
数値目標 ②	項目	市の防災対策への市民満足度				目標種別	↑
	評価者	防災対策担当参事 北川 高宏					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	2.87 /5	2.91 /5	2.96 /5	3.00 /5	
	実績	2.82 /5	— /5	2.87 /5	2.88 /5	—	
	評価	—	—	C	D	—	
今後の方針	出前講座や防災訓練などにより地域の防災体制を強化し「自助」と「共助」の意識を高めます。						

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

数値目標 ③	項目	木造住宅耐震診断の受診割合(累計)				目標種別	↑
	評価者	防災対策担当参事 北川 高宏					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	30.0 %	33.4 %	36.7 %	40.0 %	
	実績	26.7 %	29.5 %	36.0 %	37.5 %	—	
	評価	—	B	S	S	—	
今後の方針	地震から市民の命を守るため、住宅の耐震化など引き続き周知啓発に努め、地震対策を進めます。						
数値目標 ④	項目	地区防災計画の策定(累計)				目標種別	↑
	評価者	防災対策担当参事 北川 高宏					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	7 地区	12 地区	17 地区	22 地区	
	実績	5 地区	7 地区	7 地区	7 地区	—	
	評価	—	S	E	E	—	
今後の方針	地区防災計画策定セミナーの内容を検討するなど、より多くの地区に策定いただけるよう取り組みます。						

関係所属	
防災対策課	

5. 安全・安心な生活 ④消防力の充実

評価者	消防団事務局長 松本 芳昭		
令和4年度 実行宣言			
あらゆる災害に対応できる松阪市消防団をつくります。			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆	
あらゆる災害に対応するためのツールの1つとして、消防団に無人航空機(ドローン)を配備し、無人航空機操縦者技能証明を有する消防団員13人で組織する松阪市消防団ドローンチームを発足しました。また、コロナ禍でありましたが、感染防止対策を行い、一部制限を設けながら各種訓練や消防出初式などのイベントを実施することができ、消防団員の災害対応技術の向上と士気高揚が図れました。			
↓			
令和5年度 実行宣言			
消防力の三要素である「人員・機械装備・消防施設」の充実強化を図ります。			

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	消防団員数				目標種別	→
	評価者	消防団事務局長 松本 芳昭					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	1,293人	1,293人	1,293人	1,293人	
	実績	1,293人	1,251人	1,224人	1,202人	—	
	評価	—	E	E	E	—	
	今後の方針	機能別団員(予防広報団員)や様々な媒体を活用し積極的な広報を行い、消防団員の確保に取り組みます。					
数値目標 ②	項目	消防団協力事業所の認定数				目標種別	↑
	評価者	消防団事務局長 松本 芳昭					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	31 事業所	32 事業所	33 事業所	34 事業所	
	実績	30 事業所	30 事業所	28 事業所	29 事業所	—	
	評価	—	E	E	E	—	
	今後の方針	消防団員の被用者割合は高く、消防団員が活動しやすい環境づくりのため、引き続き事業所などに働きかけ、消防団活動に理解が得られるよう取り組みます。					
数値目標 ③	項目	耐震性貯水槽数				目標種別	↑
	評価者	消防団事務局長 松本 芳昭					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	161 基	161 基	161 基	161 基	
	実績	157 基	161 基	161 基	161 基	—	
	評価	—	S	S	S	—	
	今後の方針	耐震性防火水槽の設置数は目標に達しています。今後は、老朽化した非耐震性防火水槽の耐震性防火水槽への更新や解体撤去を検討するとともに、既設の防火水槽の維持管理に努めます。					

関係所属
消防団事務局

5. 安全・安心な生活 ⑤浸水対策の充実

評価者	建設部長 松本 尚久	
令和4年度 実行宣言		
<p>市管理河川等については、引き続き計画的な河川改修や排水路整備を進めながら、国・県管理河川については、国土強靱化の推進を図るため、流域治水を基本とした河川改修要望や特定都市河川の指定について、国・県と連携を図ります。</p>		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<p>市管理河川については、一部繰り越しがあったものの計画的な整備ができました。名古屋川や百々川など県管理河川については、松阪地区浸水対策検討会における実施計画に基づき事業を進めました。特定都市河川については、令和4年度末に指定され、今後、地域の浸水対策が加速化されることを期待します。樋門、樋管、排水ポンプ場などの管理は、地域と連携し水害時において迅速な対応ができました。しかし、目に見える効果が乏しく、市民満足度としては0.03の下降となりました。</p>		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<p>市管理河川等における河川改修や排水路整備と、県・市で構成する松阪地区浸水対策検討会による対策を計画的に進めます。また、中村川、赤川が特定都市河川に指定されたことにより、国・県と連携し、地域の浸水対策の加速化を図ります。</p>		

評価者	上下水道事業管理者 前崎 高志	
令和4年度 実行宣言		
<p>令和3年度に引き続き、床上浸水ゼロ(愛宕川流域)に向けて整備工事を進めます。</p>		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<p>愛宕川雨水管渠詳細設計に基づき、雨水枝線管渠の整備を実施した結果、市民に対し、浸水被害の軽減という効果をもたらしました。</p>		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<p>令和4年度に引き続き、床上浸水ゼロ(愛宕川流域)に向けて整備工事を進めます。</p>		

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	浸水対策事業に対する市民満足度				目標種別	↑
	評価者	建設部長 松本 尚久					
		上下水道事業管理者 前崎 高志					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	2.80 /5	2.84 /5	2.87 /5	2.90 /5	
	実績	2.77 /5	— /5	2.85 /5	2.82 /5	—	
	評価	—	—	S	C	—	
今後の方針	流域治水の観点から、国、県、市の連携強化によって総合的な浸水対策を行います。						
数値目標 ②	項目	排水ポンプ及び樋門(15施設)の大雨時の稼働率				目標種別	→
	評価者	建設部長 松本 尚久					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	100%	100%	100%	100%	
	実績	100%	100%	100%	100%	—	
	評価	—	S	S	S	—	
今後の方針	引き続き、定期点検の実施と計画的なポンプ場等の設備更新により、確実な施設の稼働に努めます。						

関係所属	
農村整備課、建設総務課、土木課、建設保全課、上下水道部	